

1) 着目した豊かさの要素・要件

回答欄： 非日常性から感じる豊かさ

2) 豊かさの要素・要件が生まれた背景や要因

回答欄：

海外旅行など、普段の生活とは異なる体験ができる局面。

景色・風景や言葉、食べ物など、普段の生活と異なる瞬間が「あるはず」な場所へ移動する際のワクワク感＝非日常性と考えます。

移動した先にそのような場があることを想像する、そういうところから、「移動」及びその手段である「モビリティ」の豊かさが感じられる。

もちろん、移動中の空間なども非日常的要素のひとつ。例えば、その先に楽しみがなければ狭い客席に10時間以上拘束されることには耐えられない。即ち、楽しみがあるから狭い客席も豊かに感じられる。

3) 着目する豊かさの要素・要件を阻害するコト・モノ

回答欄：

移動自体が生業に直結する日常ではないため、残念ながら非日常的体験のために使える時間が現状では圧倒的に少ない。

出張などいつもと違う場所での仕事は、少なくとも「いつもと違う場所」というだけで非日常。

在宅勤務も、実は非日常でした。

①どこでも働ける環境

②自由になる時間

この二つがあまり整っていないことが、豊かさの要素・要件を阻害するモノ・コトと考えます。

1) 人間が長寿化することにより起こるであろう個人の変化

回答欄：

身体の老化（家族の健康状態含め）。
精神的な老化（感受性の低下／いろいろなことが面倒になるのではないか）。
経済的な不安。

2) 人生100年時代の個人の変化によって生まれるであろう新たな移動・モビリティ

回答欄：

買い物や通院などの日常的な移動のハードルを下げるようなパーソナルモビリティ。
逆に、サービス自体がモビリティ化する。
旅行などでの移動そのものの付加価値を高めるようなモビリティ。
自由に暮らす場所を選べる、住まいのモビリティ化。

3) 人生100年時代には、移動・モビリティのどのような側面・性質が重要となるか

回答欄：

ストレスフリーであること。
経済コスト・環境コストが限りなく低いこと。
ライフスタイルの変化に追従できるフレキシビリティを持つこと。